



インドゥストリー4.0 と一帯一路 ～ドイツ・中国の経済連携～

東海大学名誉教授 前島 巖様

卓話者紹介

小田 孝志会長

1935年長野県生まれ。中央大学法学部をご卒業され1959年からドイツのミュンスター大学に5年間留学されました。帰国後は在日ドイツ商工会議所の専務理事補佐をされ、数々の財団にお勤めになり、現在は東海大学名誉教授です。

1. 多極化と「ヘッジ外交」の時代

世界は今や多極化の時代に入りました。5月末のG7サミットの後、ドイツのメルケル首相は「他国に完全に頼る時代は終わりつつある」と述べました。アメリカの外交専門誌『フォーリン・アフェアーズ』誌(2017・3/4)は、トランプ大統領の「アメリカ・ファースト」政策の下で「ヘッジング(リスク分散・両がけ)外交」をする国が現れるだろうと論じています。今後は従来の同盟関係を越えた予想外の国家間の結びつきがあちこちで現れるでしょう。

ドイツと中国間の最近の経済連携の強まりも、そうした世界の動きの一つかもしれませんが、GDP世界第4位と第2位の国の結びつきは注目すべきでしょう。

2. ドイツの「インドゥストリー4.0」戦略

ドイツは2011年にIT技術やIoT、ビッグデータなどを駆使した「ものづくり大国」を目指すことを打ち出しました。2013年には政・官・財・大学・研究機関・労働組合などが一体となって推進組織を発足させ、2035年までのロードマップも作っています。この国家戦略プロジェクトを「インドゥストリー4.0」と呼んでいます。これは第4次産業革命を目指すこと意味しています。第1次産業革命は蒸気機関、第2次は電気、第3次はコンピューターによる革命でしたが、第4次はITやセンサーを駆使した、いわゆる「スマート工場」を作りあげて生産管理を自動化し、またデータを共有したスマート工場同士をインターネットで結びつけて生産効率を上げるばかりでなく、生産をマーケティングに直結させるものです。これによって消費者のニーズに即応するばかりでなく、資源やエネルギーの節約とともに、追いつける途上国との価格競争にも打ち勝とうとするものです。

中国政府はドイツのこの「インドゥストリー4.0」への協力を表明し、両国企業間の関係緊密化が進んでいます。特に自動車産業の企業間協力が進ん

でいます。

3. 中国の「一帯一路」戦略

中国は「一帯一路」という大「シルクロード経済圏」構想を掲げ、去る5月14日から世界29か国の首脳を北京に招き首脳会議を開催しました。中国はすでにアジアとヨーロッパのあちこちで道路や鉄道、港湾の建設・管理を行っており、陸路「一帯」のヨーロッパ側拠点としてはドイツのベルリン、ハンブルク、デュスブルクなどの巨大貨物列車駅があります。これらの駅と中国の重慶、東莞、長沙、鄭州などの間では、毎週2・3回、コンテナ40個、貨車全長700メートルにもなる貨物列車が行き来しています。積み荷は主にフォルクスワーゲンやBMWの自動車部品や雑貨であると言われています。「一路」のヨーロッパ側拠点は、既に中国が管理しているギリシャのピレウス港であることはよく知られています。中国の貨車はドイツの他にもロンドンやマドリードへも行っています。

中国にとっては「シルクロード経済圏」のインフラへの投資は過剰生産された鉄やセメントなどの在庫整理にもなると見られています。

4. 強まるドイツ・中国の経済的結びつき

「一帯一路」首脳会議の後、6月1日に中国の李克強首相率いる中国代表団がベルリンを訪問し、メルケル首相と「通商・環境協力協定」を締結しました。ドイツは中国が「市場経済国」として認められるようEU側に推薦するとしています。

ドイツ側にとって「フォルクスワーゲン不正」の後、VW社を支えているのは中国市場であり、両国の自動車産業の協力は自動運転技術開発にも及んでいます。また将来市場として両国の自動車産業が狙っているのはアフリカです。他方、中国側は資源大量消費型産業構造から脱出するべく「中国版イノベーション」を進めようとしています。その技術をドイツから得ようとしています。

5. 日本はどうする

さて、日本はアメリカと中国の間でどうするかが問われています。また、日本が将来とも「ものづくり大国」であるためには、不足するITやIoTの技術者養成から社会設計に至るまでの未来戦略を早急に策定する必要があります。

閉会点鐘

小田 孝志会長

創立/1993年10月13日(平成5年)
事務局/〒102-0073 東京都千代田区九段北1-2-2
グランドメゾン九段906号
Tel: 03-3288-7300 Fax: 03-3288-7400
E-mail: ocha-rc@sirius.ocn.ne.jp
<http://tokyo-orc.jp/>

例会日 毎週水曜日 12:30~13:30
例会場 ホテルグランドパレス Tel: 03-3264-1111
会長 小田 孝志 幹事 奥山 聡
会報 八木 壮一(委員長) 松島 健(副委員長)
大原正道 佐々木啓策 山下秀一 山下憲男(委員)